

果試ニュース

第2号 平成8年7月



ハウスのもも（5月）

傾斜地かんきつ園の軽労働省力生産システム

場長 向井 武

愛媛県の果樹農業は経営規模が零細で、園地の多くが急傾斜地にあって、分散しており労働生産性が低いことは否めない現実です。

このような状況のもとで、防除や施肥、収穫運搬などの作業は、体力のあるうちは軽労働であっても、高齢になると同じ作業が重労働になって適時適作業ができなくなり、作業効率が低下してきます。

果樹試験場では、こうした園内作業の軽労働省力化を図るため、園内作業道をつけて汎用運搬車など機械を利用した生産体系を組み立てるための試験研究に取り組んでいます。高齢者や女性の労力負荷を軽減し、若い後継者にはスピード感のある快適作業ができるようなシステムをねらっていますが、経営規模や園地条件などに応じて多様なシステムが考えられ、できるだけ経費をかけないで、いかに効率的なシステムを組み立てるかが課題です。

最近、こうした省力機械化に農家の関心が高まり、園内作業道の整備が進められていますが、機械でできる作業は機械を利用して効率を高め、余剰の労力を集約的技術に投入して高品質果実を生産してほしいものです。